

目 次

21世紀における学術と専修大学の「社会知性」……………家永 登 ……	1
日本学術会議報告書「日本の展望 ——学術からの提言2010」に接して……………坂本 武憲 ……	4
公開シンポジウム「21世紀日本における学術の展望」……………	13
神兵隊事件資料・今村力三郎先生書簡等資料……………	15
室員消息, 編集後記……………	16

21世紀における学術と専修大学の「社会知性」

——シンポジウム「21世紀における学術の展望」の開会にあたって——

専修大学今村法律研究室長 家永 登
法学部教授

本日は、専修大学社会科学研究所、法学研究所、今村法律研究室および日本学術会議・日本の展望委員会共催のシンポジウム「21世紀における学術の展望」にご来場いただき、有難うございます。

また、今回のシンポジウム開催に当たり労をおとりいただいた本学法学部教授広渡清吾先生、および参加をご快諾いただき、本日も講演をいただく諸先生に、主催者を代表して御礼申し上げます。

開会のご挨拶として、専修大学でこのようなシンポジウムを開催する意義について、私なりの感想を述べさせていただきます。

専修大学は、本年で創立131年になります。そして、21世紀にむけてのビジョンとして「社会知性の開発」をうたっております。「社会知性」というのは本学での造語ですが、「社会知性」の意味を理解するためには、専修大学の歴史を振り返り、各時代の社会的背景や他の教育、研究機関との関係を見直したうえで、現在の社会的背景を踏まえて本学の置かれている位置を考える必要があると私は思います。

専修大学は、今から131年前の明治13（1880）年に、法律と経済を専門に教授する私立専修学校として創設されました。帝国大学を頂点とする小学、中学、大学制度の枠外の専門学校としてのスタートでした。創設者たちは、官費で留学することができたことへの報恩という気持ちから、本業の傍ら夜間に無給で本学の生徒たちに法学、経済学を教授しました。

初期の本学の卒業生たちは、他の専門学校の卒業生たちと同様に、代言人、判任官、あるいは地方官僚となる者が多かったようですが、やがて産業の発展とともに法科よりは経済が主流となり、卒業生の多くも民間に進むようになりました。

その後、大正9（1920）年の大学令に伴い、本学も大正11年に正式に専修大学となりました。しかし、大学令による大学は、帝国大学とは別の種類の大学として構想されたものだったようです。この時期に専修大学の学長を務めた阪谷芳郎元蔵相は、次のように述べています。

「東京帝国大学と云ふものは、……世界の何れの大学にも、一步も劣らぬように、最高の學術技芸を授ける所でなくてはならぬ。……併ながら、総ての日本の大学を、其の通りにせぬならぬと云ふことはない。慶應大学の如き、早稲田大学の如き、又専修大学の如き、種々のものがあって宜しい。それはそれで、大学教育に満足を与へて宜しいのであります……。」（天野・後掲『大学の誕生（下）大学への挑戦』313頁からの引用。原文は片仮名）

これはあくまで阪谷の個人的意見ではありますが、たしかに大学令による大学は旧来の帝国大学とは異なる存在意義をもっていたように思われます。すなわち、旧制高校—帝国大学という系列に対して、大学予科—本科という系列に立ち、學術と技芸という二分法があるならば技芸、理論と実学という二分法に従えば実学、研究と教育という二分法があるならば教育、教養と専門という二分法に従うならば専門、さらには教養と修養という二分法があるのであれば恐らく修養の側に立ってい

たことが、大正の大学令によって設立された大学の特徴ではなかったかと思えます。

昭和24(1949)年には、戦後の学制改革によって専修大学も新制大学となり、本研究室がその名前を冠してその貢献を顕彰しております今村力三郎総長、鈴木義男学長のもとで、教学面だけでなく財政面も含めて再出発を期することになりました。リベラル・アーツ教育を基本理念の一つとした新制大学も発足から60余年を経て大きく方向を変えつつあります。そのような中で、現在、本学は21世紀のビジョンとして「社会知性の開発」を掲げているのですが、その意味、ひいては本学の存在意義は、以上に述べてきた専修大学の歴史を顧みると、社会の動向、特に他の教育研究機関のあり方を離れては考えることができないと思えます。

本日は、日本学術会議が示された「21世紀の日本における学術のあり方」に対する展望をお伺いすることで、私たち専修大学のあり方を顧みるとともに、今後の方向を考えるよすがにしたいと思っております。ご来場いただいた皆さまにおかれましても、それぞれのご関心に従って興味をもって諸先生のお話をおききいただくことができるものと思えます。

以上をもちまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

(2010年7月3日)

【参考文献】

専修大学の歴史編集委員会『専修大学の歴史』（平凡社、2009年）

天野郁夫『大学の誕生（上）帝国大学の時代、（下）大学への挑戦』（中公新書、2009年）

筒井清忠『日本型「教養」の運命——歴史社会学的考察』（岩波現代文庫、2009年）

新渡戸稲造『自警録——心のもちかた』（講談社学術文庫、1982年）

本田由紀『教育の職業的意義——若者、学校、社会をつなぐ』（ちくま新書、2009年）